

麦類の赤かび病を適期に防除しましょう！

本年産麦は、平年より7～10日程度早く茎立期を迎え、出穂期は二条大麦で平年より3～7日、六条大麦・小麦では同1週間程度早まる見込みです。既に生育の早かったほ場で幼穂凍死が確認されており、今後、不稔粒の発生に伴い赤かび病の多発が懸念されることから、**適期防除を徹底しましょう。**



写真1 赤かび病(小麦)
穎の合わせ目に鮭肉色のかびを生じる。

- ・麦類の赤かび病は、品質を低下させる重要病害です（写真1）。本病菌は、人畜に有害なかび毒（DON、NIV等）を産生するため、農産物検査の規格では、食用の全麦種で赤かび粒の混入限度が0.0%を超えないこと、と定められています。
- ・予防的に防除を行い、発生防止に努めることが重要です。

【防除対策】

- ・出穂や開花の状況をよく観察し、ほ場・麦種ごとの**防除適期**（表1）を逃さないよう、防除を徹底する。
- ・不稔粒が発生したほ場は、赤かび病多発のおそれがあるため、追加防除を実施する。
- ・薬剤感受性の低下を防ぐため、FRACコードの異なる薬剤をローテーション散布する（表2）。
- ・無人航空機による散布は、一般の散布とは希釈倍数（散布液量）が異なるので注意する（表3）。
- ・**表1の防除適期は水稻作業の繁忙期であるが、薬剤散布は適期を逃さず必ず行う。**

表1 麦種ごとの防除適期

麦種	防除適期	多発のおそれがある場合 (不稔粒発生や登熟期連続降雨時の追加散布)
二条大麦	穂揃い期7～10日後（葯殻抽出期※1） 写真2	1回目の7～10日後に2回目散布
六条大麦	開花始※2と開花10日後の2回散布 写真3	3回目散布
小麦	開花始※2と開花20日後の2回散布 写真4	3回目散布

※1：穎の先端から葯殻(受粉を終えた葯の殻)が押し出されてくる時期

※2：抽出した葯殻を初めて認めた日



写真2 【二条大麦】
穂揃い期7～10日後
(葯殻抽出期)



写真3 【六条大麦】
開花始



写真4 【小麦】
開花始

※矢印で示す部分が抽出した葯殻

表2 麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（令和6（2024）年4月10日現在）

農薬名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	大麦	2000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	DMI剤	3
	小麦		7日前まで/2回以内		
ワークアップフロアブル	麦類	2000~3000倍 (60~150L/10a)	7日前まで/3回以内		
チルト乳剤25	大麦	1000~2000倍 (60~150L/10a)	21日前まで/1回		
	小麦		3日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	1500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)	MBC剤	1
	小麦	1000~1500倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
トップジンM水和剤	麦類 (小麦を除く)	1000~1500倍 (60~150L/10a)	30日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)		
	小麦		14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
ストロビーフロアブル	麦類 (小麦を除く)	2000~3000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/3回以内	QoI剤	11
	小麦				
ミラビスフロアブル	大麦	1500~2000倍 (60~150L/10a)	14日前まで/2回以内	SDHI剤	7
	小麦	1500~2000倍 (50~150L/10a)	7日前まで/2回以内		

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。

表3 麦類の赤かび病に登録のある主な薬剤（無人航空機による散布）（令和6（2024）年4月10日現在）

農薬名	作物名	希釈倍数 (散布液量)	収穫前日数/ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRAC コード
シルバキュアフロアブル	大麦	16倍 (0.8L/10a)	14日前まで/2回以内	DMI剤	3
	小麦		7日前まで/2回以内		
ワークアップフロアブル	麦類	10~24倍 (0.8L/10a)	7日前まで/3回以内		
チルト乳剤25	大麦	8倍 (800mL/10a)	21日前まで/1回		
	小麦		7日前まで/3回以内		
トップジンMゾル	麦類 (小麦を除く)	8倍 (0.8L/10a)	21日前まで/3回以内 (出穂期以降は1回以内)	MBC剤	1
	小麦		14日前まで/3回以内 (出穂期以降は2回以内)		
ミラビスフロアブル	大麦	8~16倍 (800mL/10a)	14日前まで/2回以内	SDHI剤	7
	小麦		7日前まで/2回以内		

注1：必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守る。

注2：薬剤抵抗性の発達を防ぐ観点から、FRACコードが同一のものは連用を避ける。

詳細は、農業総合研究センター 環境技術指導部 防除課（TEL 028-665-1244）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせは「栃木県農政部 X(@tochigi_nousei)」、
農業総合研究センターホームページ（<https://www.pref.tochigi.lg.jp/g59/index.html>）でも
ご覧になれます。